

<第97回調査>

2017年6月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2017年6月13日(火)13:00～2017年6月20日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は682件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

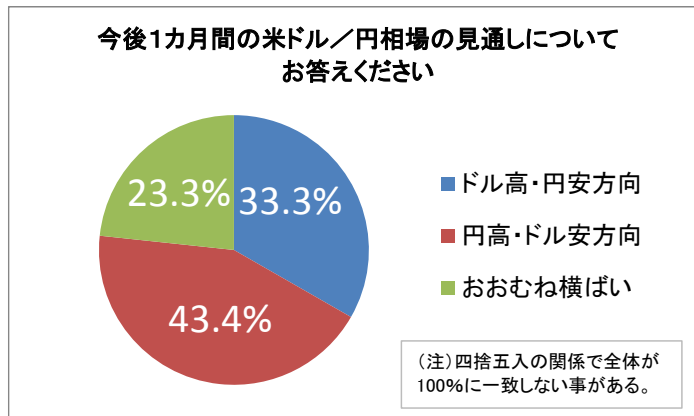
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第97回調査結果略報：個人投資家の見通し分かれる】

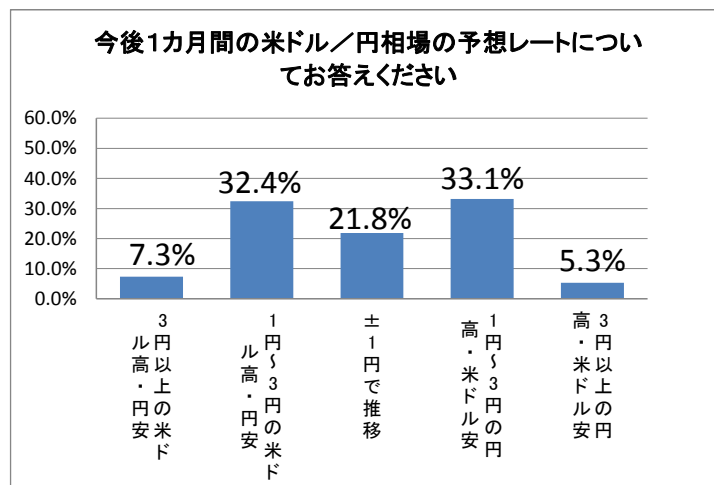
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が33.3%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は43.4%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は▼10.1%ポイントとなり、先行き「弱気」を示すマイナス圏へ再び転落した。調査期間中の米ドル/円相場は、一時108.70円台まで下落して4月につけた年初来安値に迫ったが、その後は14日の米連邦公開市場委員会(FOMC)を経て持ち直しており、111円台を回復した。FOMCは「年内もう一回」の利上げとバランスシート縮小の年内開始を見通しとして示しているが、個人投資家の相場見通しにはあまり響かなかったようだ。FOMCのそうしたタカ派姿勢を懐疑的に見ている向きが多いのだろう。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の円高・米ドル安」が33.1%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安(32.4%)」、「±1円で推移(21.8%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(7.3%)」、「3円以上の円高・米ドル安(5.3%)」の順になった。ヒストグラムの形状は、前回に続いて中央の「±1円で推移」が低い「M字」型を描いている。個人投資家の心理に強気と弱気が交錯しており、相場見通しが大きく割れている様子が見て取れる。



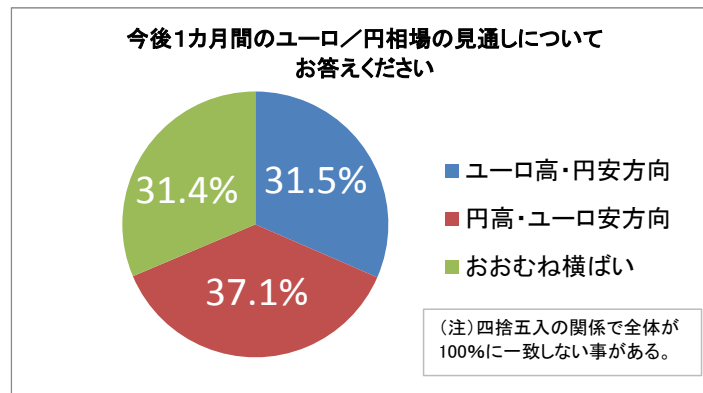
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

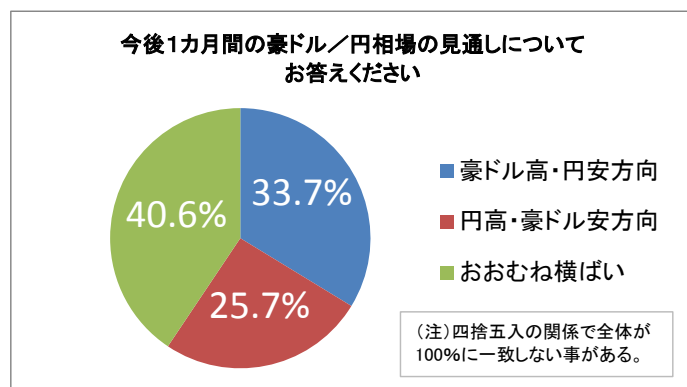
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が31.5%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が37.1%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼5.6%ポイントと、ユーロ強気見通しを維持できずにマイナス圏に差し込んだ。調査期間中のユーロ/円相場は、一時5月上旬以来の安値となる122.30円台に下落したが、その後は124円台に持ち直すなど、一定の底堅さは見られた。しかし、個人投資家の見通しを強化させるほどの値動きではなかったようだ。調査期間の前に、ドラギ欧州中銀（ECB）総裁が性急な緩解除に慎重な姿勢を示した事も影響しているのだろう。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が33.7%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は25.7%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は△8.0%ポイントとなり、前回の△7.9%ポイントとほぼ横ばいであった。調査期間中の豪ドル/円相場は、82円台後半から84円台後半へと上昇するなど（アンケート調査終了直後に85円台へ上伸）堅調に推移。豪5月雇用統計の好結果などから豪中銀（RBA）が来春にも利上げするとの観測がじわりと浮上しており、こうした期待が豪ドル相場を押し上げるとともに個人投資家の豪ドル強気見通しを支えたと考えられる。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



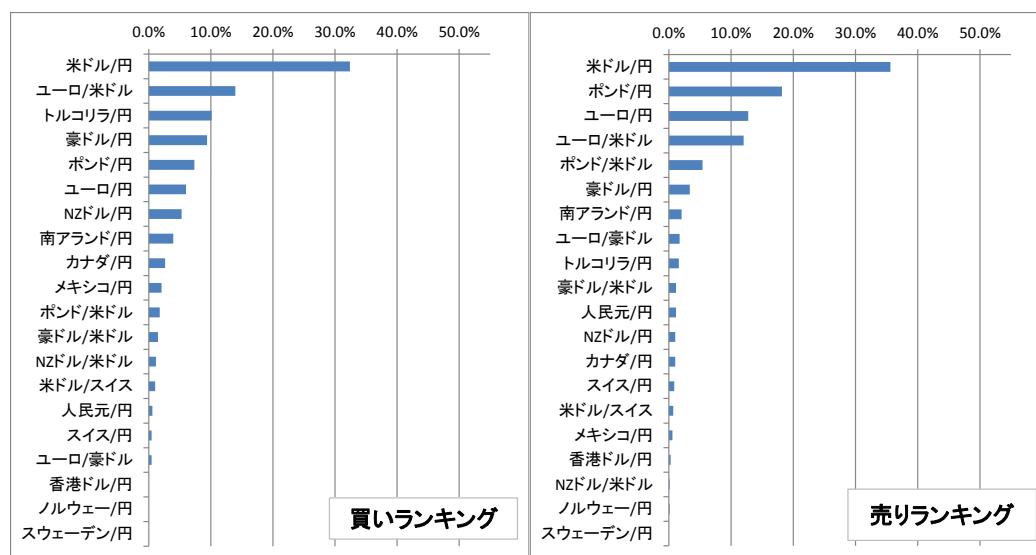
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が32.4%の回答割合を集めて1位であった。以下、ユーロ/米ドル(13.9%)、トルコリラ/円(10.1%)、豪ドル/円(9.4%)、ポンド/円(7.3%)の順に続いた。米ドル/円が連続首位記録を57カ月(4年9カ月)に伸ばしたほか、ユーロ/ドルも前回と同じく2位をキープした。ただ、前回3位に入ったユーロ/円は6位(6.0%)へと順位を落とした。また、トルコリラ/円や豪ドル/円などの新興国・資源国通貨のクロス円ペアにも根強い買い意欲が見られた。

一方、「売り」で注目の通貨ペアでも米ドル/円が35.6%の回答割合を集めて8カ月連続で首位をキープ。以下、ポンド/円(18.2%)、ユーロ/円(12.8%)、ユーロ/米ドル(12.0%)、ポンド/米ドル(5.4%)の順に続いた。上位陣の顔ぶれに大きな変化こそなかったが、ポンド/円が前回の4位から2位に浮上し、ポンド/米ドルが同6位から5位に上昇したのが印象的だ。調査期間中の19日に、英国と欧州連合(EU)による離脱交渉が正式に始まっており、今後の交渉難航を見越した個人投資家のポンド売り意欲が感じられる結果となった。

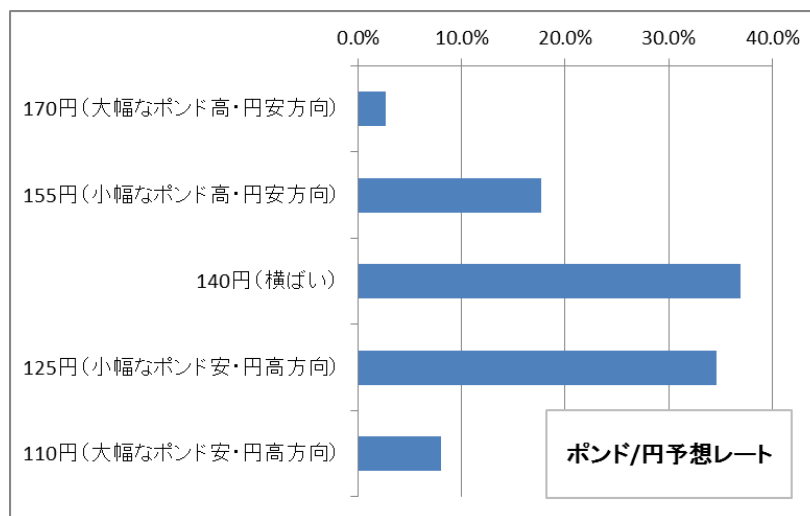


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6: 2017年12月31日ニューヨーククローズ時点のポンド/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「2017年12月31日ニューヨーククローズ時点のポンド/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「140円(横ばい)」が37.0%と最も多かった。次いで「125円(小幅なポンド安・円高方向)」が34.6%と僅差で続き、「155円(小幅なポンド高・円安)」が17.7%と続いた。なお、「110円(大幅なポンド安・円高方向)」が8.1%だった一方、「170円(大幅なポンド高・円安)」は2.6%にとどまった。全体的に見て下落方向をイメージする向きが多い事がわかる。それぞれの理由について自由記述形式で尋ねたところ、ポンド安方向とした向きからは「EU離脱の影響」を挙げる声が圧倒的に多かった。EU離脱に伴い英国景気に下押し圧力がかかるとの見方が強いのだろう。一方、上昇予想派からは「英経済は意外に堅調」との声や「ポンドより円が弱くなる」とする見通しが聞かれた。

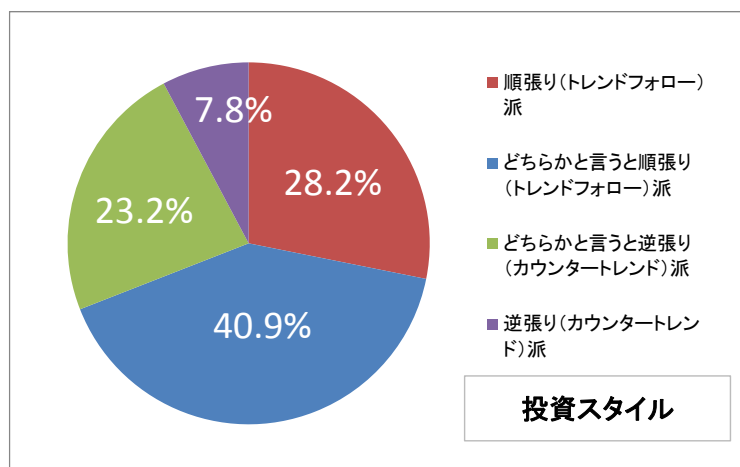


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7: あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)

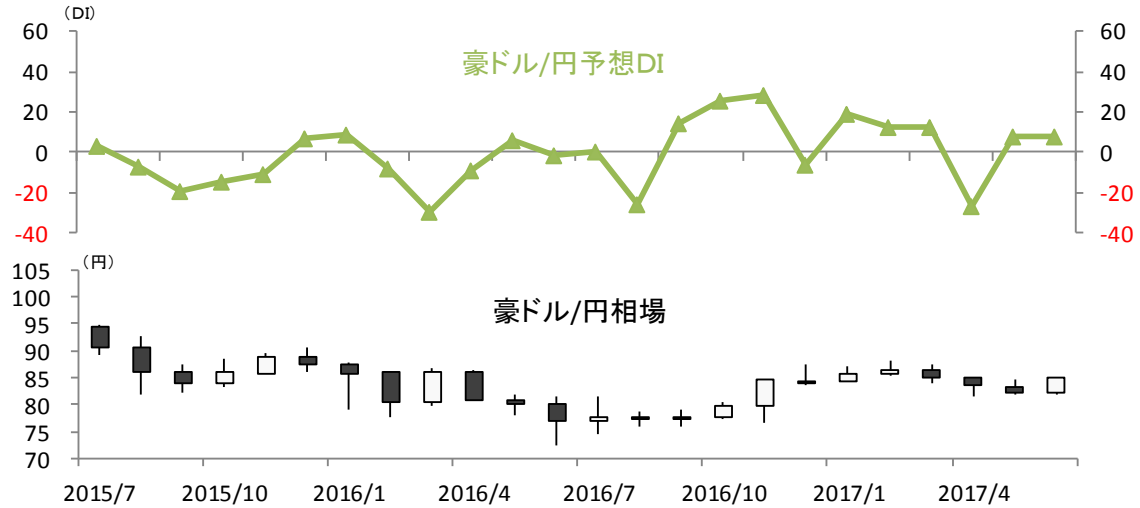
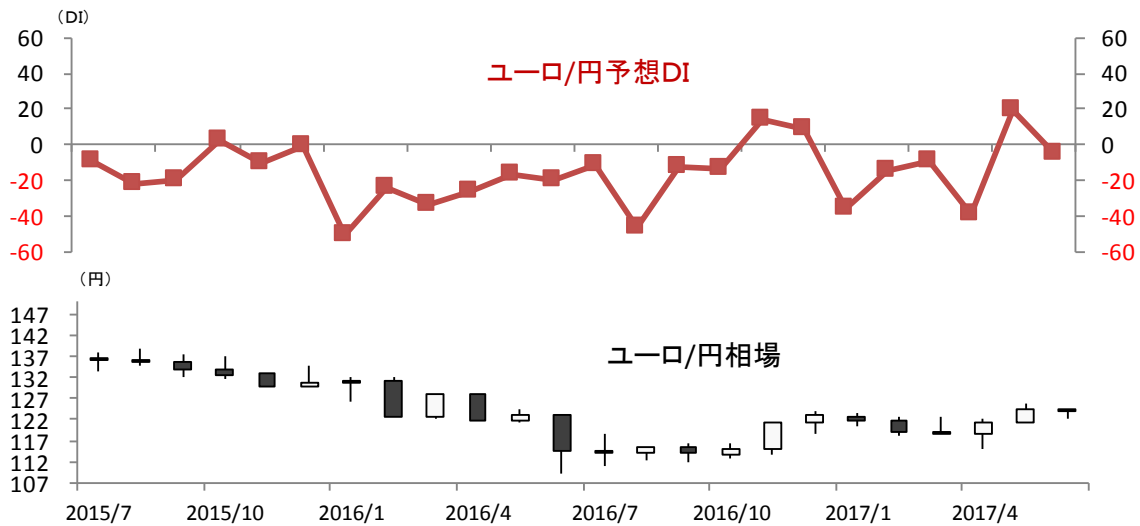
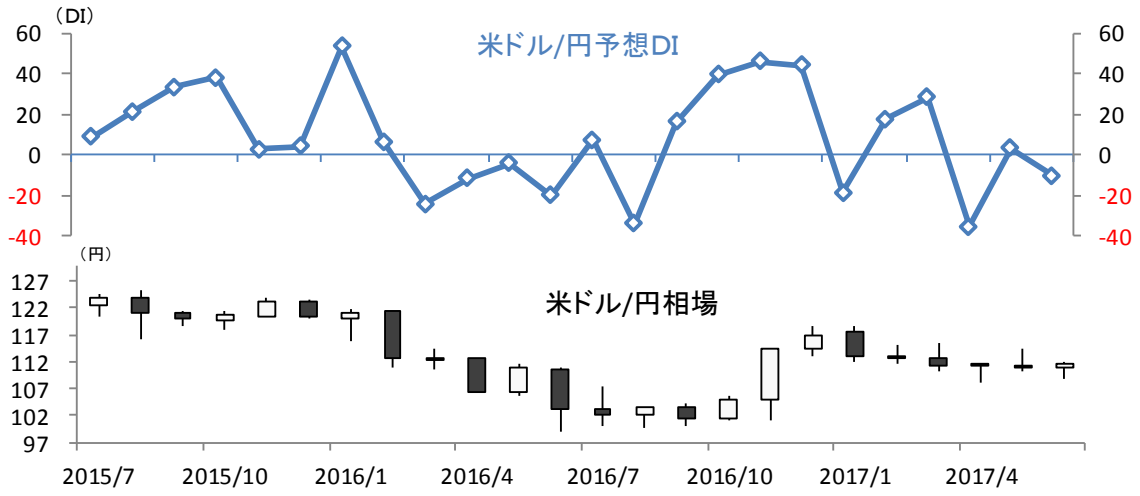
今回の特別質問として、「あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「どちらかと言うと順張り(トレンドフォロー)派」が40.9%と最も多かった。「順張り(トレンドフォロー)派(28.2%)」との合計で7割近くの個人投資家が順張りスタイルを自認している事になる。一方の逆張り派は「どちらかと言うと逆張り(カウンタートrend)派(23.2%)」と「逆張り(カウンタートrend)派(7.8%)」の合計で3割強にとどまった。個人投資家の投資スタイルについては、相場下落時に買いポジションが増加する一方、上昇時には売りポジションが増加するケースが多い点などから、メディア等で「逆張り志向」が指摘される事も少なくないが、個人投資家本人にはそうした意識は薄い事がわかる。なお、その理由について自由記述形式で尋ねたところ、順張り派からは「相場は流れに乗るのが基本」との回答が多かった。そのほか「逆張りにはリスクが大きい」との意見もあった。一方、逆張り派からは「大きな利幅を狙うため」「長期投資のために安く買いたい」などの理由が挙げられた。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第97回目となりました。調査開始から8年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

| | | 米ドル／円 | | | ユーロ／円 | | | 豪ドル／円 | | |
|-------|-----|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|
| | | 米ドル高 | 米ドル安 | DI | ユーロ高 | ユーロ安 | DI | 豪ドル高 | 豪ドル安 | DI |
| 2015年 | 7月 | 49.1 | 15.5 | 33.6 | 23.6 | 43.7 | -20.1 | 22.8 | 41.7 | -18.9 |
| | 8月 | 51.1 | 13.1 | 38.0 | 30.9 | 28.8 | 2.1 | 24.1 | 38.5 | -14.4 |
| | 9月 | 37.1 | 34.5 | 2.6 | 24.9 | 35.8 | -10.9 | 29.9 | 40.7 | -10.8 |
| | 10月 | 30.3 | 26.2 | 4.1 | 30.3 | 31.1 | -0.8 | 39.6 | 33.0 | 6.6 |
| | 11月 | 67.3 | 13.6 | 53.7 | 11.1 | 61.4 | -50.3 | 34.4 | 25.6 | 8.8 |
| | 12月 | 43.8 | 37.1 | 6.7 | 19.7 | 44.1 | -24.4 | 30.5 | 38.4 | -7.9 |
| 2016年 | 1月 | 27.3 | 51.5 | -24.2 | 19.2 | 52.6 | -33.4 | 22.8 | 52.5 | -29.7 |
| | 2月 | 34.7 | 46.3 | -11.6 | 22.5 | 49.0 | -26.5 | 32.3 | 41.3 | -9.0 |
| | 3月 | 33.3 | 37.6 | -4.3 | 24.8 | 42.1 | -17.3 | 37.6 | 31.8 | 5.8 |
| | 4月 | 30.2 | 50.2 | -20.0 | 24.2 | 43.9 | -19.7 | 34.2 | 35.7 | -1.5 |
| | 5月 | 40.8 | 33.4 | 7.4 | 22.6 | 38.2 | -11.6 | 35.7 | 35.3 | 0.4 |
| | 6月 | 26.3 | 60.2 | -33.9 | 20.0 | 67.0 | -47.0 | 24.8 | 50.5 | -25.7 |
| | 7月 | 48.3 | 32.1 | 16.2 | 32.1 | 44.7 | -12.6 | 44.2 | 29.8 | 14.4 |
| | 8月 | 26.5 | 48.9 | -22.4 | 17.2 | 48.1 | -30.9 | 25.9 | 40.2 | -14.3 |
| | 9月 | 34.5 | 36.8 | -2.3 | 23.8 | 38.0 | -14.2 | 28.4 | 35.4 | -7.0 |
| | 10月 | 57.3 | 17.6 | 39.7 | 24.2 | 37.7 | -13.5 | 43.3 | 23.0 | 20.3 |
| | 11月 | 65.9 | 19.9 | 46.0 | 38.7 | 24.8 | 13.9 | 47.0 | 21.2 | 25.8 |
| | 12月 | 64.4 | 20.2 | 44.2 | 36.6 | 28.3 | 8.3 | 50.0 | 21.6 | 28.4 |
| 2017年 | 1月 | 35.2 | 54.0 | -18.8 | 18.3 | 54.1 | -35.8 | 28.9 | 35.5 | -6.6 |
| | 2月 | 46.2 | 28.7 | 17.5 | 23.8 | 38.1 | -14.3 | 41.9 | 23.1 | 18.8 |
| | 3月 | 53.3 | 24.7 | 28.6 | 27.6 | 37.4 | -9.8 | 36.1 | 23.1 | 13.0 |
| | 4月 | 21.6 | 51.7 | -35.5 | 17.7 | 56.6 | -38.9 | 19.6 | 46.4 | -26.8 |
| | 5月 | 38.4 | 35.3 | 3.1 | 45.9 | 26.5 | 19.4 | 34.9 | 27.0 | 7.9 |
| | 6月 | 33.3 | 43.4 | -10.1 | 31.5 | 37.1 | -5.6 | 33.7 | 25.7 | 8.0 |

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com